

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 31 年 1 月 7 日

事業所名 備前三門校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		複数支援実施の際は、パーテーションやクッションで危険回避を図っている。	危険を予測できるように、お子様の初動の前兆を見極める。
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		お子様の傾向に合わせて空間づくりをしている。	お子様の発達の変化に応じた空間づくりが構築できるよう職員間で情報共有している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日常的に清潔な状態を保てる様、清掃を習慣化している。	支援ごとで生産されるゴミに関しても職員間で協力のもと、清潔な状態に復元して次の支援に迎えられる様心がけている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		職員間で参画している。	些細なことでも目標への手がかりとして相談、連絡している。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価実施して、利用者様の意向を把握し、改善に努めている。	保護者様との関わりやご相談に真摯に対応することで、お子様の日常的な発達の促しにつなげよう心がけている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公開している。	利用者様からのご意見を真摯に受け止め、課題や改善すべき点の検討をして、速やかに対応できるよう心がけている。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的な研修に参画している。	研修や事例をもとに、事業所での改善点を常に想定して、日々療育に取り組んでいる。
適切な 支援の	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		定期的な支援計画を作成している。	アセスメントをもとに支援計画を作成し、定期的、または保護者様の申し出をもとに支援計画を作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ツールを使用している。	標準化されたツールや個々のお子様のニーズに合わせてツールを手作りで作成したり、また、お子様と一緒に作成している。

提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインに従って個々のお子様に必要な支援内容を選択している。	個々のお子様の傾向や強みを保護者様との関わりの中で把握しながら、ガイドラインの多方面での支援を考慮して支援内容に反映している。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に基づいた支援を実施している。	計画に基づいた支援を実施しながら、個々の発達の兆しを見極めて、計画の内容の変更を図っている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームで立案している。	支援で困惑したら些細なことでも、職員間で連絡、相談して立案するようにしている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラムは2～3種を準備している。	お子様のその日の状態に合わせて自発的に取り組めるようにしている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		個別活動が主な活動内容になっている。	フィードバック時の時間を利用して少人数での活動ができるようにしている。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日常的に内容の確認や役割分担を把握している。	朝礼はもとより、支援準備中に支援内容の確認、役割分担など適宜相談している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日常的に終業後に情報共有している。	終礼で本日の振り返り、反省を発言できるよう心がけている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録、支援内容の記録を記述している。	お子様ごとの支援の内容や様子の変化など細かく記録するものと、正式な記録となる指導記録を記述している。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリングを実施している。	計画の見直しは定期的実施するが、お子様の発達の変化や保護者様の申し出に応じて、計画を見直している。
	関係機関や保護者との連携関係	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもの状況に精通した者が会議に参画している。
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との連携に取り組んでいる。	保護者様の要望により、関係機関との連携を図り、お子様のより良い支援の充実を図っている。
㉓		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		それぞれの機関との連携に取り組んでいる。	アセスメントの時点でお子様の状況を把握し、必要に応じた機関との連携や教育機関との連携を図っている。
㉔		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		必要に応じて連携できるように取り組んでいる。	協力担当医との連携はもとより、保護者様の要望や必要に応じて、利用者様の主治医とも連携できるように準備している。

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援内容の連携ができるように取り組んでいる。	保護者様の要望により、移行支援としての情報共有や相互理解を図れるように取り組んでいる。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援内容の連携ができるように取り組んでいる。	保護者様の要望により、移行支援としての情報共有や相互理解を図れるように取り組んでいる。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の専門機関との連携に取り組んでいる。	保護者様の要望により、他の専門機関との連携がとれるよう取り組んでいる。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	現在のところ、交流は実施していない。	

保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		定期的に参加している。	支援の質の向上を図るため、定期的な参画を心がけている。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者様との関わりは日常的に慣らしている。	お子様の現状の共通理解は、支援時間外の家庭での関わり方に影響するので、常に保護者様との個々の状況課題の共通理解を図ることに取り組んでいる。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		○	具体的にペアレントトレーニングとしての実施はしていない。	具体的な活動はないが、保護者様の希望で、家族の悩みや困りごとへの助言などの家族支援をしている。
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や必要に応じてご説明させていただいている。	契約時には必ず、保護者様にご理解いただけるよう説明し、必要に応じて説明させていただいている。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		提供すべき支援を支援計画に示しながら説明している。	保護者様からの質問にいつでも対応できる様、わかりやすく説明できる様心がけている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要な支援と助言に取り組んでいる。	保護者様からの要望より、お困りごとへの助言が適切にできるよう心がけている。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	父母の会は現存しない。	
③⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れに対して迅速かつ適切に対応できるように取り組んでいる	保護者様からの要望より、お困りごとへの助言が迅速かつ適切にできるよう心がけている。	
③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月2回ホームページを更新し、事業所の様子を発信している。	事業所の様子や季節における伝言など定期的に発信している。	

	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の保持の遵守に努めている。	個人情報の漏洩が発生しない様、書庫の管理に配慮している。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		親子の意志疎通の擦り合わせに取り組んでいる。	お子様から発信されるサインなど、保護者様と共に考えていく雰囲気づくりと相談し合える状況づくりに取り組んでいる。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域に開かれた事業運営を心がけている。	地域に根差した事業所として稼働できるように日々取り組んでいる。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		訓練はもとより、利用者、保護者様に周知を図っている。	定期的に訓練し、事業所内でシミュレーションを実施するなど、日常的に意識が持続するように職員間で認識向上を図っている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月、訓練を実施している。	毎月訓練を実施することで、災害のシミュレーションを実施して、認識の向上を図っている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメントの時点での把握、また中途からの服薬やお子様の状況の変化を把握するように取り組んでいる。	アセスメントでの状況把握が変更になる場合もあるので、保護者様との関わりを密にすることで、状況の変化に対応できるように取り組んでいる。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		諸対応が必要な情報は把握している	事業所内での飲食での対応はないのが、お子様の状況として把握できる様心がけている。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		日常的に共有している。	ハインリッヒの法則に基づく危険因子も把握できる体制づくりと小さな危険も回避できる様、心がけると共にそのような状況が発生した時点で記録し、職員間で情報共有している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修に参画し、適切な対応を目指している。	定期的な研修によって職員間で共通理解を図るとともに、意識の向上を日常的に持続するよう取り組んでいる。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束ゼロを掲げて療育活動に取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ」を掲げ、支援の技術の向上と、声かけによるなごめる雰囲気構築を図れるよう取り組み、尽力している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成 30 年 1 月 8 日

事業所名 備前三門校 保護者等数（児童数） 7 回収数 4 割合 57%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3	1				危険を予測できるように、お子様の初動の前兆を見極めるようにしている。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	4					適切であると考えている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	2	2				お子様の発達の変化に応じた空間づくりが構築できるよう職員間で情報共有している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4					支援ごとで生産されるゴミに関しても職員間で協力のもと、清潔な状態に復元して次の支援に迎えられる様心がけている。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	4					児童発達支援ガイドラインの示す支援内容から個々のお子様のニーズで選択しながら支援計画悪化するよう心がけている。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4					個々のお子様の傾向や強みを保護者様との関わりの中で把握しながら、ガイドラインの多方面での支援を考慮して支援内容に反映している。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4					計画に基づいた支援を実施しながら、個々の発達の兆しを見極めて、計画の内容の変更を図っている。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	4					支援で困惑したら些細なことでも、職員間で連絡、相談して立案するようにしている。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		1	2		保護者様の要望により、他の専門機関との連携がとれるよう取り組んでいる。
保護	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4					契約時には必ず、保護者様にご理解いただけるよう説明

者への説明等							し、必要に応じて説明させていただいている。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	4				保護者様からの質問にいつでも対応できる様、わかりやすく説明できる様心がけている。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか		4			具体的な活動はないが、保護者様の希望で、家族の悩みや困りごとへの助言などの家族支援をしている。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4				お子様の現状の共通理解は、支援時間外の家庭での関わり方に影響するので、常に保護者様との個々の状況課題の共通理解を図ることに取り組んでいる。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4				保護者様からの要望より、お困りごとへの助言が適切にできるよう心がけている。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		2	2		父母の会は現存しないが保護者様間の要望により取り組める様にしている。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	3			1	保護者様からの要望より、お困りごとへの助言が迅速かつ適切にできるよう心がけている。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4				お子様から発信されるサインなど、保護者様と共に考えていく雰囲気づくりと相談し合える状況づくりに取り組んでいる。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか		2		2	事業所の様子や季節における伝言など定期的に発信している。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	4				個人情報の漏洩が発生しない様、書庫の管理に配慮している。
	非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	3	1		
㉑		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	1			毎月訓練を実施することで、災害のシュミレーションを実施して、認識の向上を図っている。

満足度	②	子どもは通所を楽しみにしているか	4					お子様が楽しく過ごせる雰囲気づくりができるように心がけている。
	③	事業所の支援に満足しているか	4					支援内容の伝達はもとより、保護者様の不安や疑問点を一緒に考えながら連携させていただく様心がけている。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。